



Lion

最上川



小児がん征臣「天使の泉 チャリティコンサート」 子供達の未来に手を差しのべて



羽黒山/五重塔

ガバナー・テーマ

～次なる 100 年への歩み～

「子供たちの未来へ手を差し伸べて行くライオンズを築こう」

アクティビティスローガン

「時代と地域に求められる奉仕を」



ガバナー公式訪問を終えて

2017年～2018年ガバナー公式訪問が地区内7会場で開催され、熱心な意見交換や和気あいあいとした雰囲気の中での晩餐会が行われ、各RやZ内のクラブ1つ1つと向き合う事が出来た事が、大きな成果であったと思っています。

三役協議会では、ガバナーテーマ・アクティビティスローガン・重点目標の理念や思いを説明させていただきました。さらに各クラブごとに「会長テーマについて」、「会員の状況と増強の目標について」、「アクティビティについて」を語ってもらった後に多少のディスカッションの時間を持ちました。その中での1番の悩みはメンバーの高齢化と会員増強の伸び悩みでした。平均年齢が70歳を超えているクラブの悩みは深刻です。又Z内には平均年齢が44歳の若手のクラブも在り、将来のクラブの在り方を考える時に若手・壮年・熟年がバランス良く存在するクラブを目指すクラブ運営を日々思い続ける事が大切ではないかと思いました。

しかしそんな中で、こんな時こそアクティビティーが大切だと皆で励ましあい、知恵を出し合い汗をかき、姉妹クラブの力も借りながら積極的にアクティビティーに取り組んでいる姿勢に感動しました。

この様なアクティビティーへの積極性は、今年強く感じるところであり、地域のために人々のために・青少年のために行われる奉仕のすばらしさは、本来のライオンズの目指す原点です。この奉仕への積極性こそが、LCIフォーワードの目指すところなのです。

公式訪問を終えた後に、数多くの奉仕活動にご招待を受けました。日程が重なり残念ながら参加出来ない奉仕もありましたが、クラブが一丸となって取り組み、良く準備され、人々の笑顔で成功裡に終える奉仕は、ライオンズ活動の醍醐味です。その意味で、クラブ会長のリーダーシップと責任は大きいと言えるでしょう。

この期はまだ半期を残しています。善き奉仕、そして会員増強へと努力を続けて参りましょう。最後に、担当のゾーンチェアパーソンやホストクラブの皆様、そしてメンバー各位に心から感謝を申し上げ、御礼のご挨拶いたします。

332-E地区ガバナー L. 伴 和香子

第1R第1Z・第2Z(8/31)

第1R第1Zゾーンチェアパーソン L. 三 浦 元 (山形LC)
第1R第2Zゾーンチェアパーソン L. 佐 藤 英 昭 (山形千歳LC)



去る8月31日、ホテルメトロポリタン山形を会場に332-E地区ガバナー伴和香子・キャビネット役員・構成員の方々ご出席の下、第1R第1Z・第2Z合同のガバナー公式訪問例会を開催させて頂きました。例会を前に三役協議会を開き、各クラブ三役・キャビネット構成員のご紹介をさせて頂き、ガバナー主導の下、各クラブの方針等を発表してもらいました。ガバナー公式訪問例会は、約160名の出席の下、ガバナーよりご挨拶並びに方針発表を賜り、続けて副地区ガバナーのお二方にもご挨拶を賜りました。新入会員の入会式ではガバナーより直接ラベルピンを付けて貰い緊張の面持ちで感無量の会員もいたようです。懇親会も和やかな雰囲気の中、無事に終了できましたこと報告させて頂きます。最後に担当の山形羽陽LC L. 佐藤英昭(山形千歳LC)の皆様には御礼申し上げます。ありがとうございました。





第2R第1Z・第2Z(9/8)

第2R第1Zゾーンチェアパーソン L. 高橋良三(米沢LC)

第2R第2Zゾーンチェアパーソン L. 児玉照八(白鷹LC)

去る2017年9月8日、白鷹町産業センターを会場に、地区ガバナー伴和香子をはじめ第一副地区ガバナー浅賀隆、第二副地区ガバナー伊藤明彦、キャビネット役員の方々に御出席いただき開催される運びとなりました。

はじめに、ガバナーがもっとも重要視している三役協議会が開催され、若干緊張の様子も見受けられる各クラブ三役の皆さんでしたが、ガバナーの質問に対しては各クラブ会長の方々の明確な回答にガバナーも納得されたと思います。

三役協議会の中での問題点として、この度の時間設定を1時間30分の会議時間としましたが、20分ほど超過してしまった点です。これを踏まえて次年度は2時間程度の設定にするべきかと思えます。それだけ非常に中身の詰まった会議だったのではないのでしょうか。

場所を移し、第2R10クラブ合同例会は20分遅れで開会したものの、会員の皆さんの温かい拍手がガバナーを迎えてくれました。地区ガバナー・副地区ガバナーの紹介、キャビネット構成員の紹介、各クラブ紹介と進み、その後ガバナーからは今年のガバナーテーマ、～次なる100年への歩み～「子供達の未来へ手を差し伸べて行くライオンズを築こう！」に沿った挨拶を頂きました。その後行われた、前年度の会員増強推進賞の伝達では、地区の表彰5クラブのうち、銀賞に米沢松川LC、銅賞に長井LC、川西山形LCと第2Rから3クラブも顕彰していただきました。

例会終了後は、鷹野湯温泉パレス松風に場所を移し、150人の会員の皆さんとの懇親会が盛大に行われました。時間の許す限りとは言ったものの、僅か1時間30分程度の宴でありましたが、ガバナーを何人もの女性会員が囲み、一緒に写真を撮っているのが印象的でした。

最後に、この度の公式訪問に際しお力添えを頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

L. 児玉照八(白鷹LC)

第3R第1Z・第2Z(9/7)

第3R第1Zゾーンチェアパーソン L. 芳賀秀明(寒河江臥龍LC)

第3R第2Zゾーンチェアパーソン L. 佐藤みさ子(天童もみじLC)

332-E地区第3Rのガバナー公式訪問は、第1Z・第2Zクラブ合同により、9月7日(木)、天童温泉「天童グランドホテル舞鶴荘」において午後6時から200余名の会員参加の下、盛大に開催されました。

地区ガバナー伴和香子が盛大な拍手で迎えられて入場、開会セレモニーの後、第2Z佐藤みさ子ZCから地区ガバナー・副地区ガバナーの紹介、第1Z芳賀秀明ZCからキャビネット構成員の紹介、天童もみじLC近野和弘会長によるガバナー歓迎の挨拶に続いて、地区ガバナー伴和香子、第一副地区ガバナー浅賀隆、第二副地区ガバナー伊藤明彦の挨拶が行われました。

伴和香子ガバナーから、16-17年度会員増強推進賞の伝達、地区ガバナー・バナー贈呈、新入会員の入会式等、盛会のうちに閉会致しました。

引き続いて行われた懇親会は、奥山紘一元地区ガバナーのユーモア溢れるライオンズローアで締め、またの再会を誓い散会しました。

L. 佐藤みさ子(天童もみじLC)





第4R第1Z(9/12)

第4R第1Zゾーンチェアパーソン L. 石 垣 卓 雄 (東根さくらんぼLC)



9月12日にガバナー伴和香子を迎え、東根市の総合福祉施設「タントクルセンター」で開催されました。

4R-1Z 内の5クラブメンバー、キャビネット役員の参加により、事前の三役協議会を経て、式典に入り、ガバナー伴和香子、2名の副地区ガバナーの挨拶を頂きました。次なる100年へ微力ながら「We Serve」精神でアクティビティスローガンである「地域貢献に求められる奉仕」の実施へ決意を新たにしたところです。

新入会員の入会式も同時に行われ新たに2名の仲間を

迎え、奉仕することの「意味、喜び」を伝えながら、さらなる会員の増強に努めようと最大目標と致しました。

場所を移動し「さくらんぼ東根温泉」で懇親会を行い、地酒を酌み交わせながら、各クラブの「抱えてること」や「あり方」など話し合って交流を深めたところでした。アトラクションでは県内で活躍している2名の歌手のミニ歌謡ショーも行なわれ、楽しいひとときを過ごすことができました。

L. 石垣卓雄 (東根さくらんぼLC)



第4R第2Z(9/14)

第4R第2Zゾーンチェアパーソン L. 井 上 裕 之 (新庄NCLC)

9月14日(木)新庄市のザ・リヴィントンにおきましてガバナー伴和香子ほかキャビネット役員の皆様をお迎えし、第4R第2Zガバナー公式訪問・6クラブ合同例会を開催いたしました。先立って行われた三役協議会では、本年度の国際会長、332複合地区および332-E地区ガバナーの活動方針が説明され、時間が足りなくなるほど活発な協議がなされました。私自身も各クラブ地域に根着いた様々なアクティビティを行っている事を再認識することが出来、大変勉強になりました。また、公式訪問では伴和香子ガバナーより以前旦那様の仕事の関係で新庄・最上で暮らしていた頃、雪の多さに大変驚き苦労した話や、地域の人々と交流の中での心温まるエピソードを交えながらのご挨拶いただきました。最後の懇親会での「また逢う日まで」・ライオンズロアまで和やかな雰囲気の中、ガバナー公式訪問を終えることができました。幹事クラブの新庄 NCLC はじめゾーン内6クラブの皆様ご協力ありがとうございました。

L. 井上裕之 (新庄NCLC)

区ガバナー L. 伴 和香子 公式訪問





第5R第1Z(9/20)

第5R第1Zゾーンチェアパーソン L. 洪 八 満 (酒田シーサイドLC)

5R1Zのガバナー伴和香子公式訪問は、9月20日(水)酒田駅前のル・ポットフーにて行われました。

三役会議の集合時間直前に稀に見るゲリラ豪雨に見舞われ先行き不安ではありましたが、ゾーン内76名、キャビネットより13名、合計89名の参加のもと無事に開催することができました。

三役協議会においては、各クラブ会長より熱のこもった意見や様々な意見を頂き、ガバナーからも負けずに熱い質問や提案もあり、危うく時間が超過しそうになる一幕も。各クラブ同士、参考になる点や問題点などを共有できる貴重な場となりました。

続いて行われた公式訪問では、4名の新入会員入会式が行われフレッシュな緊張感が伝わり、これから各クラブでの活躍を期待させてくれるとともに、新たな力を得ることがライオンズクラブにとって重要な推進力であるのだということを我々に思い出させてくれるセレモニーとなりました。当日まで挨拶等の役割をお伝えすることを忘れており、当日現場でお願いすることとなった各クラブの会長にはここで深くお詫びと感謝いたします。懇親会では、地区ガバナー、第一副地区ガバナーのお膝元ということもあり、とてもリラックスしたなごやかな雰囲気中で杯を傾けることが出来ました(第二副地区ガバナーは緊張の面持ちでありましたが)。なごやかに程がある、と私に苦言を呈された方も数名いらっしゃったほどのです。当日数々の不手際にも関わらず、暖かく見守って頂いたガバナー始めキャビネット構成員の皆様と、当日参加頂いたすべてのメンバーに感謝いたします。ありがとうございました。

L. 洪 八満 (酒田シーサイドLC)



第5R第2Z(9/28)

第5R第2Zゾーンチェアパーソン L. 相 馬 三 生 (鶴岡鶴陵LC)

8月31日の1Rでの公式訪問を皮切りに当地区で本年度最後となる第5R第2Zの地区ガバナー公式訪問が平成29年9月28日に鶴岡鶴陵LCの担当で鶴岡市グランドエル・サンにて開催された。参加者は115名。担当クラブ鶴陵LC会長小林隆広Lの歓迎の言葉のあと地区ガバナー伴和香子、第一副地区ガバナー浅賀隆、第二副地区ガバナー伊藤明彦より挨拶があり、次にガバナーから各クラブへバナーが贈呈された。

今回、羽黒LCに櫻井勇吉L、鶴岡鶴陵LCに竹野和史Lの入会式が執り行われ、新入会員のライオンズの誓いが高らかに唱和され、2人にとっては記念となる入会式であった。



懇親会は浅賀隆第一副地区ガバナーの乾杯の発声のもとに和やかに始まり盛大に行われました。

終盤は皆で輪になり、「また会う日まで」を大合唱し、第二地区ガバナー伊藤明彦のライオンズローで終了となりました。公式訪問にあたり担当クラブをはじめ第2ゾーンの各クラブのご協力ありがとうございました。

L. 相馬三生 (鶴岡鶴陵LC)



第1回 リーダーシップ実践セミナー

元地区ガバナー・名誉顧問/地区GLTコーディネーター L.屋代 久

2017年8月25日、今期初めてのセミナーが東根市さくらんぼタントクルセンターで開催された。参加者は百十数名を数えた。今回のセミナーは、GLTと次世代リーダーシップ研究会とFWTの合同企画であった。

沼田浩正 L(川越つばさ LC)は『非常識への挑戦〜「楽しい」は新しい未来の始まり〜』をテーマに講演された。内容は夢と希望をもってライオンズに入会し活動をしてきたが、途中から会の有力者により「奉仕」とは別の方向にそれていった。そこで「志」を持った同志達で新しいクラブを立ち上げた。奉仕を中心に例会は趣向を凝らし楽しく開催しているとの事でした。ここで特筆する事は、普通は会を退会するところ彼等は新しい理想のクラブを作ったということである。だから今も理想のために努力しているとの事でした。

矢羽々睦子 L(盛岡観武 LC)は『こども・大人も地域社会の一員として』を複合 FWT コーディネーターの実践者として講演していただいた。FWTはもともと会員増強のツールとして日本だけの委員会として発足した。が、332複合地区は今入会している家族会員と一緒に活動ができる事、また、女性の目線でできる事を中心に活動してきました。その中の一つが「子ども食堂」です。日本にも2割の貧困家庭があるそうです。そんな子供たちのために月に1〜2回、100円で腹いっぱい食べてもらおうと活動したのものです。その活動は日本全国に広がろうとしています。

100の理論、知識より1の行動、実践が大切なことを学ばされました。沼田 Lは非常識な挑戦により素晴らしい仲間を得、矢羽々 Lはフロンティアとして輝いています。

知行合一、私たちも頑張りましょう。

九州北部地方及び秋田県大仙市豪雨災害について

会則・長期計画リサーチ・アラート委員会 委員長 L.山下 里美

山々には雪景色の声が聞かれる頃、クラブ各位の皆様におかれましては益々のご清栄のこととお慶び申し上げます。

伴 和香子地区ガバナーが始動を始めてから4ヶ月余り経ち、ガバナー公式訪問、キャビネット会議、そして各セミナーと会員協力の下、意識の向上とライオンズクラブ発展のため遂行されております、そのため各委員会はさまざまなニーズに応えるようセミナーを企画し、委員会どうしの連携を図り精進しております。



時代の流れと共に新しい委員会が出来たり、また無くなったりとライオンズクラブの奉仕の先にあるニーズにこたえるべく日々変わっていく状況のなか、ALERT 委員会（緊急事態にある人々に、必要なサービスを提供すること）として7月5日九州北部地方豪雨災害の発生を受け、LCIFの支援金対応と複合地区ガバナー協議会、そして各地区に応援要請がなされたのは会員の皆様もご承知のことと存じます。長期の復興支援が必要とされ、日々変わっていく災害支援活動のニーズに応じていくことが大事で、被災された方の衣食住のほか、ボランティアのための支援活動も必要になってきます。今回332-E地区として九州地方に防塵マスク、保護メガネ500個、土のう1200枚を337-C地区キャビネットに送付支援物資協力として地区会員の皆様の温かい財源を利用し活動が出来たことや、秋田県大仙市豪雨災害に対して、前地区ガバナー角田裕一 Lの協力もいただき、ペットボトルお茶、スポーツドリンク等83ケース、同時に北海道331-C地区より次世代リーダーシップ委員会を通して、フェイスタオル15箱を共同物資提供とし、私たちライオンズクラブ員としての志を大仙市社会福祉協議会に届けることもできました。これからは災害支援を必要とされる人がいます、さまざまなアプローチを考え、行動することが大切ではないかと思っています。

最後になりますが、各委員会を通し、皆様の温かい支援をいただき誠にありがとうございました。



Lions Quest 「思春期のライフスキル教育」プログラム ライオンズクエストセミナー

ライオンズクエスト青少年指導委員会 委員長 L. 佐藤 正

7月31日開催の「思春期のライフスキル教育」プログラムセミナーに、鶴岡市教育委員会のご協力を頂いて開催しました。

開催に至るまで一年前から協力を要請していた伴和香子ガバナーの事前の努力に感服しました。その努力と熱意の結果、教育委員会に協力して頂けたのではないかと思います。

最近の学校では、行事が一年前から計画されており、途中からの日程は取り組めない。今回、困難の中で組み込んで頂いたことに驚きました。また、セミナーに鶴岡市内外の先生方が大勢出席され、しかも、カリキュラムに進んで取り組む方が多い事に感激しました。鶴岡市（庄内地区）の教育に対する取り組みが先生方を変え、そして子ども達の将来も変え、地域の宝である子ども達を育てる基本となっている。「思春期のライフスキル教育」プログラムセミナーの開催を推進すべきと思いました。



より良い集団づくりを学ぶ
教職員対象セミナー開催
庄内日報掲載



酒田宮野浦海岸清掃活動

酒田市こがね北公園美化・清掃活動

8/6 宮野浦海岸

近隣の小中学校生徒からの理解も多くなり協力業者からの重機の出動もあり効率的に活動することができました。



酒田みなとLC

L. 足達 武男

8/26 酒田市こがね北公園



殺風景な公園に、花を植え込みしたプランターを設置しました。自治会長さんからも参加して頂き、会員共々と和気藹々と楽しい時間を過ごしました。また、作業終了後に“ネスの会”主催でバーベキューを行い会員の親睦を図りました。



天童LC

10/12

チャリティゴルフコンペの食糧支援活動

「第3R合同チャリティゴルフ」での収益金で山形市内2ヶ所子ども食堂にお米や果物を贈呈しました。



10/19

薬物乱用防止啓蒙活動

幹事 L. 伊藤 忠

天童市内のJR4駅（天童駅・天童南駅・高掬駅・乱川駅）に分かれ、高校生を対象に、早朝の通学・通勤の一人一人に、天童LCオリジナルポケットティッシュを手渡し、薬物の恐ろしさを訴えた。当クラブでは世界ライオンズ奉仕デーの一環として毎年行っている。



高掬駅



ライオンズクラブ国際協会100周年記念 (奉仕の100年を祝おう)



ライオンズクラブ国際協会は、今年創立100周年を越え、新たな101年目を迎えました。

国際協会は、今後世界のライオンズクラブが取り組んでほしいグローバル奉仕の枠組みを発表しました。それは青少年の参加をも強調しながら取り組む奉仕、視力・糖尿病・食料支援・環境・小児がんでした。

2017年7月からのスタートとなりましたが、FWT委員会の柱となる事業と踏まえると共に、開催地の河北町会場と鶴岡市会場の2ヶ所に実行委員会を立ち上げ、3R1Z、4R1Z・2Z、5R2ZのZCそして各クラブ会長の協

力を得ながら進める事となりました。又協賛のお願いやチケット販売等を含め地区内全クラブそして会員の皆様よりご協力をいただいたおかげで、無事に事業が終了し、小児がんへの理解や支援を行なう事が出来ました。深く御礼を申し上げます。

この事業は、河北町出身で元聖路加国際病院副院長 / 小児総合医療センター長、現在同病気特別顧問小児科医細谷亮太先生の「小児がんの子どもたちの“いのち”と向き合い続けた40年」の講演と、細谷先生と共に(公財)がんの子どもを守る会のソーシャルワーカーを務める近藤博子先生のお話をお聞きし、小児がんを知り、理解し、支援の一步を踏み出すきっかけの事業となった事は、大変喜ばしい事でした。

小児がんは、成人のがんと違って身体の深い部分に出来、発症原因は未だに解明されておらず、それ故に突然の発症は大きな心の負担になる事を知りました。同時に子どものがんでは、白血病・悪性リンパ腫・脳腫瘍・神経芽腫・骨腫瘍など「肉腫(非上皮性悪性腫瘍)」がほとんどであり、私達が長年熱心に取り組んでいる献血や骨髄バンク登録の要請奉仕が、小児がんの子どもたちを救う奉仕でもある事をしました。

又、会場共に地元の子供達による歓迎のステージ(河北町中部小学校「豆奴」・河北町両所「田植え踊り」・鶴岡放送児童合唱団)が行なわれ、元気な子ども達の明るくはつらつとしたステージが、小児がんを患う子ども達への思いやりや征圧への強い願望となり、この事業に一層のインパクトを与えてくれたように思います。

主催団体である、清水康子「ひとつの会」は小児がん征圧をスローガンに21年間の永きに渡り支援を行なっているシャンソン歌手のグループで、その活動により厚生労働省が後援を認める数少ない団体の一つです。





山形県第3回 “生きる” 小児がん征圧

「天使の泉」 Dr.細谷亮太氏の 講話&チャリティコンサート

河北町 9月23日(土)
会場:サハトベに花
鶴岡 9月24日(日)
会場:グランド エル・サン

合わせて両会場共に日本のシャンソン歌手第一号・高 英男さんの生誕100年に寄せての遺品の展示紹介と、被災地支援「手創工房 輝きの和」の作品販売が、又ロビー活動として㈲毎日新聞社会事業団「小児がん征圧募金」と九州北部豪雨災害義援金としての募金活動が行なわれ、FWT委員会メンバーや各会場実行委員メンバーの活発な奉仕活動が華を添えていました。

小児がんへの支援奉仕の有り方は無限の可能性が有ります。小・中学校の課外授業として「がんにならない体を作る12条」と称する予防医学に関する奉仕を行なっているNPOの話も聞きました。

この事業をきっかけとして、子ども達の未来がより明るく輝くように、今後共会員の皆さんの温かい手を差し伸べていただけますようお願いいたします。

L. 伴 和香子

L. 渋谷 敬子



❄️ ❄️ FWTメンバーの感想 ❄️ ❄️

私自身この講話とコンサートを通して、今まで考えた事のなかった小児がんの支援について身近な事として考えるよい機会となりました。

実行委員の立ち上げから開催日まで、約1ヶ月という短期間にもかかわらず、両会場とも成功裏に終える事ができた事は、332-E地区全体の奉仕活動として、協賛金やチケット販売、また当日会場に足を運ぶなど、各メンバーが関心を持って参加した結果だと思います。地区のすべてのメンバーに感謝申し上げます。

L. 富樫富美子 (鶴岡鶴陵LC)

○広く一般の方々に小児がんについて認識を高めてもらう良い機会でした。

○両会場に地元の子供達のステージの時間を取ったのはとても良かった。

○生きたくても夢なかばで旅立った子ども達の「いのち」の大切さを痛感した。

L. 松山宏一 (大石田LC)

L. 石川昭文 (大石田LC)

○皆さんから寄贈していただいたネクタイや帯・着物がブックカバーや草履の商品になる事を目の当たりにし、感動しました。

○会場での販売は、再生された品物の紹介と共にネクタイや着物の提供に対する信頼につながり、更なる提供が期待される。

○売上の20%がLCIFに還元されている事も素晴らしい事業だと思った。

L. 金子千津子 (山形羽陽LC)

L. 野口 美樹 (天童中央LC)





東日本復興支援

332複合地区FWTフェスタ in 宮古

日時 2017年10月12日(木)～13日(金)
場所 岩手県宮古市浄土ヶ浜パークホテル



2007年に家族会員制度が始まり、時を経て家族及び女性会員の増強とリーダーシップの育成・奉仕活動への参加を促し、女性の目線や感性を生かした奉仕活動が進められるようにFWTとなり、チームとして3年目になりました。

その間に地区コーディネーター・委員長・委員・クラブリーダー等の選出が出そろい、FWTが、家族及び女性チームとして着実に実績を積み上げてきました。

2017年10月12日・13日の2日間に渡り、332複合地区初のFWTフェスタが、MDコーディネーター、矢羽々睦子Lの御膝元の岩手県宮古市で開催されました。このフェスタは東日本復興支援フェスタでもあり、被災後の経済的自立を目指して全国から提供いただいたネクタイや着物・帯を生かした緋紗織や手創り小物の工房「輝きの和」への訪問や、せまり来る津波を越えて沖へ避難して唯一残った遊覧船に乗り、船長さんより当時の悲惨な状況を説明してもらうなど、被災地宮古の状況を肌で感じる事が出来ました。又道すがら、バスの車中からは「津波到達地点」の標記が数多く見られた事と「奇跡の松」や津波にのまれた小学校の廃屋などが今でも被災地に悲しい思い出を残したまま存在している事を知りました。



そして夕刻より、332複合地区FWTフェスタ in 宮古の式典が東日本大震災犠牲者への黙祷で始められ、基調講演～東日本大震災体験談～が332-B地区FWTコーディネーターにより語られました。被災地の惨状とその後の復興の思い現実に、同じ東北人として支援の気持ちを決して忘れまいと心に誓いました。

その後は、FWT各地区6名による地区活動報告が行われ、女性の感性と知恵を存分に生かした取り組みと堂々とした発表

に、参加者100名は惜しめない拍手を送りました。さらに332-E2RIZよりのサプライズプレゼントとして、新米やパスタなどが332-B盛岡観武LCが行っている「子ども食堂」へ贈られ、L矢羽々睦子が感激の涙を流す場面もあり、東北は一つの思いに会場は大いに盛り上がりしました。



332-E地区の参加者は17名。朝6時半に出発し、片道11時間の旅を2日間共にし、バスの中は名ガイドさんのエスコートもあってか、笑いがたえませんでした。小児がん征圧「天使の泉」の事業に引き続き、FWTフェスタを取りまとめ大活躍して下さった、FWTコーディネーター渋谷敬子L・副コーディネーター横山昭子Lには、心からの賛辞と感謝を申し上げます。又9月・10月の2ヶ月間にFWTクラブリーダーの声かけによりネクタイ1,225本・着物・羽織54、帯20、その他布地やハギレが集まり、「輝きの和」へ直接納める事が出来ました。地区の皆さんへ心から感謝いたします！



L. 伴 和香子

332複合地区FWTフェスタ in 宮古に寄せて

- 各地区の方々との交流の場が出来、すばらしい企画だと思った。
- 翌日は朝8時半出発で、三陸海岸を南下。車中からでも津波の被害が手に取るように見て取れた。海が目の前なのに、高い防潮堤の建設で景観が全く変わり強い閉塞感を感じた。
- 被災者支援が出来るネクタイ再生プロジェクトは、今後来年2月と6月の2回を予定している。皆様よりの協力をお願いしたい。

L. 渋谷敬子（東根さくらんぼLC）

L. 横山昭子（米沢松川LC）

L. 瀧田順子（村山LC）

この度、大きな事業に参加させていただき、大変光栄に思っています。「日頃ライオンズクラブって何をしているの？」と友人に問いかけても明確な答えが返ってこないのが常でした。この事業で知り合った福島や秋田の方々と親しく話す機会に恵まれ、6年半経過しても未だ進まない福島の復興の悲しい現実を知り、心が痛みました。今回の参加でライオンズの取り組みは、さすがだと思いました。今後もお手伝いできる機会があれば協力していこう。と心に誓う日々です。

ノンライオン 柴田和子・井上一四



ライオンズクラブ国際協会332-E地区

2017~2018年度

第64回 地区年次大会

開催日：2018年4月29日(日)

*地区年次大会式典

鶴岡市 荘銀タクト鶴岡

*ガバナー晩餐会

グランド エル・サン



平成29年度 献血推進研究会レポート

アイヘルス・献血・献眼・臓器移植推進委員会 委員長 L. 町野 昌弘

9月26日(火)パレスグランデールにて、ライオンズクラブと山形県赤十字血液センター主催で、平日にも関わらずクラブ員はキャビネット役員事務局含め76人、県の保健担当や赤十字血液センターの職員19人と、多くの参加の下に平成29年度献血推進研究会が行われました。

この研究会は、献血への理解と知識をさらに深めて頂くための講演と、これまで各方面で献血に携わって努力されてこられたクラブの活動発表を聞き、今後の活動に役立て頂く事と、そのことについて協議する重要な会です。

講演会では、「社会医療法人みゆき会 みゆき会病院」副院長 佐藤伸二氏による「血液疾患と輸血」についてお話を頂きました。

内容としては、専門的な言葉や説明が多く、これまで医療に携わった事や周囲にも関係する人が無かった私には、とても難しい話でしたが、私達が協力して集めた血液を使う側の医療現場では、赤血球や血小板など患者さんの疾病に合わせて適切に使われている事が分かりました。また、血液は健康な人の骨髄からしか作れない事を知り献血の重要性を改めて認識した講演でした。

活動事例発表では、長井ライオンズクラブさんの長井北中学生吹奏楽イベントを実施し、学生や保護者に献血の大切さを伝えている活動が発表されました。山形県でも若年層の献血が年々減ってきており、332-E地区でも昨年から1万人献血と共に若年層への献血増加を目標にして来ました。

その目標に向けた先進的な取り組みとして評価されると思います。また、若年層を増やすためにの方策をクラブメンバーが話し合い、ドーナツは若者が好きだから景品にしたそうです。その結果、予想外に若い人が献血に参加してくれたそうで、若い人は食べ物に反応が良い事が参考になる発表でした。

酒田ライオンズクラブさんは、夏場と冬場に実施している酒田市役所において、庁舎内職員をはじめ、一般の方へも献血を呼びかけ1回で70人を越える献血協力や、メンバー自社での献血実施の際に、近隣事業所へも広く声かけを行い、半日で50人を越える協力をいただいたり、血液が減少傾向になる冬場から春にかけては、献血車を二台にして献血の安定に協力するなどの工夫されている活動が発表されました。

アイヘルス・献血・献眼・臓器移植推進委員会副委員長井上 亘しからは、若年層への献血対策としてこれからの活動予定の発表が有りました。

彼の経営している幼稚園に、山形大学の「チーム道草」と言うサークルの、子供が大好きな「I LOVE チルドレン」と言うグループが、毎年幼稚園のイベントに来るので、そのメンバーを中心に県内の大学生に献血の大切さを呼びかけ、献血に参加してもらう計画でした。具体的には今年行われる各大学での学校祭に献血ブースを設置して呼びかける予定で、学生に献血の大切さが伝わり参加者が増えたら良いなと思った発表でした。

協議は、第二副地区ガバナー伊藤明彦しが議長になり、今年度の特徴ある取組みに質問を行い、各クラブの代表が説明していました。

各クラブ一所懸命に取り組む計画でしたが、印象的だったのは、山形ライオンズクラブさんの、企業・事業所において実施されるイベントに便乗して献血を行う取組みや、南陽ライオンズクラブさんの高校や役所での献血活動がありました。

白鷹ライオンズクラブさんからは、人口の割合に応じた目標を建て、メディアを活用するにはどうしたら良いかと、逆に質問され、話題性が無いとメディアは乗ってこないのでは、そこがポイントになると議長が答えており、中味の濃い協議でした。

この研究会で話し合われた事、講演や事例発表で聞いた事を参考に、今年度も目標の献血1万人達成と若年層への献血啓発、実施に向かって進んで行きたいと思った献血推進研究会でした。



薬物乱用防止教育認定養成講座

11月8日(水) 山形県高度技術研究開発センター

キャビネット幹事 L.成澤 正一

ライオンズクラブの大きな事業の1つである薬物乱用防止活動に携わる認定講師の養成講座が2年ぶりに開催されました。

各クラブの関心も高く、すでに認定講師の資格を持っているライオンも含め68名の参加者を迎えて行われました。

最初に基礎講座として333-E地区土浦環ライオンズクラブのメンバーでもある、医学博士 万本盛三氏監修の「薬物乱用と身体への影響」と題したDVDを見て、危険薬物が身体の何処にどのように影響し、その結果どんな事態に陥るのかを具体的に事例を紹介しながらの内容は実に衝撃的で、危険薬物の恐ろしさをあらためて認識させられる内容となっておりました。乱用される恐れのある薬物には覚醒剤などの興奮作用を起こすもの、アヘンなどの抑制作用を起こすもの、MDMA や LSD などの幻覚作用を起こすものなど、多種多様にのぼり、毎年新しい薬物が世に出てくるようです。いずれにしてもこれらの薬物は内臓に様々な障害を起こし、特に脳への障害は致命的で、一度壊れた脳はもとにもどらない。このことにより身も心もボロボロになり、犯罪に走ったり、依存症になることにより自分の意思では止められなくなるなど、その末路は大変悲惨なことになると示しておりました。このDVDは自由に貸し出すことができますので是非とも小中高の防止セミナー等に活用出来ればと思います。

その後、山形県警本部組織犯罪特捜担当課長補佐 小林智浩警部から県内での薬物犯罪の現況を話していただきました。山形県内は比較的薬物犯罪は少ないものの、インターネットの普及により誰でも簡単に入手出来る環境があり、皆さん(ライオンズクラブ)からの啓蒙活動を期待しているとの話がありました。

続いて県の健康福祉企画課本間弘樹薬務専門員からの、行政での薬物乱用防止対策についての講義があり、行政から見た危険薬物の年間推移や対策等を解説して頂きました。

最後に実践講座として330-A地区東京葛飾ライオンズクラブのL.館 親光講師による、ライオンズクラブ国際協会における薬物乱用防止活動について、実際に小学校での講義を想定してテキストを交え講義していただきました。館講師については薬物乱用防止教育認定講師となっており、ライオンズクラブのメンバーとして全国各地で年間二十数回に及ぶ講師実績を持っておりますので、小学生にも解りやすい講習内容を実践として解説していただきました。

終了されたライオンからは各地域の学校での薬物乱用防止啓蒙活動に力を注いで頂ければありがたいと思います。





フランスの海外領土 ニューカレドニア

ラ・フォアルCと共に

ブーライユ農業祭に参加して

8月10日～15日

南太平洋ニューカレドニア島は、ニッケル産出量4位、埋蔵量は世界一と言われ、明治・大正と、日本から多くの移民がニッケル鉱採掘のために海を渡りました。ヨーロッパ系、メラネシア系、アジア系など約28万人が住み、面積は四国よりやや広く山形県の2倍、美しい珊瑚礁に囲まれた絶海の孤島です。

フランスパンのようなこの島は、南部は農業と牧畜、北部はニッケル鉱床採掘で栄え、本国フランスでは手離せない宝の島とも言われています。「同じように海に囲まれた島国日本の地方都市と末永く友好を深めたい」との希望で、鶴岡市とラ・フォアル市は1995年に友好都市の盟約を結び、続いてその5年後の2000年に鶴岡LCとラ・フォアルCは友好クラブの盟約を結び今年で17年目を迎えました。

この島では、コーヒーやジャガイモ・ニンジン・タロイモ・カボチャなどのすべての野菜と柿やサクランボを除く果物が豊富に採れる農業国でもあります。

カレドニアでは、冬期（南半球のため日本とは季節が真逆）にブーライユで島最大の農業祭りが行われており、40年目と云う節目に当たった今年、ラ・フォアルCの希望により鶴岡LCは招待されました。

北半球の東北地方の農産物を紹介する訪問団を結成し、鶴岡LC・鶴陵LC・三川LC・羽黒LC・米沢LCと旧朝日村の山ぶどう生産者のノンライオン2名を含む13名が、ダダチャ豆や子なす、みょうがやブルーベリー・山ぶどうのジャムやジュースそして米30kgをトランクに詰め、6000km離れたカレドニアを目指して海を渡りました。これら広葉樹林帯の恵みを受ける東北の四季の農産物を紹介すると共に、このブースの最大のヒットは、“寿司”でした。

日本の食文化はユネスコ無形文化遺産に登録され、その中でも“寿司”の人気は高まるばかりです。カレドニアには首都のヌーメアに寿司店が3件あるのみとか。身近な農業祭で大好きな寿司を食べる事が出来るなら、大人気でした。日本から持ち込んだ「はえぬき30kg」では足りず、ミャンマー産のすし米と称するお米を40kg、

合わせて70kgのすし米に近海で獲れたかじきマグロや黒マグロを乗せ、巻き寿司を詰めたパックは1ヶ800フランで売られ、3日間で600食が売れました。この利益の一部は、貧しい子供達や孤児院の子供達への支援金になりました。

又もう一つ注目を浴びたのが、ブルーベリーや山ぶどう液から得られる優れた栄養や免疫力・抗癌作用・アンチエイジング等の効能であり、すぐにでも売ってほしいと切望されましたが販売は固く禁じられており、残念な思いでした。

そして、子供たちには“折り紙”が大人気だった事もとても嬉しい事でした。

帰国の夜の一時をカレドニアのリジョンチェアマンのお宅で過ごし、絶海の孤島の南十字星を含めた満天の星空と、温かく迎え入れ共にアクティビティーのために汗を流したライオンズのメンバー達に見送られ、帰国の途につきました。青い海と輝く太陽と明るい人々、そしてライオンズならではの絆の深さが多様なアクティビティを生み出した、忘れられない夏となりました。

L. 伴 和香子





マンスリーレポート クラブ別一覧表

2017.10月

R	Z	クラブ名	会員移動状況					家族会員		金銭アクティビティ		別アクティビティ		献血		献腎	献眼	LCIF		出席率 %
			年初	月初	目標	入会	退会	現在	世帯数	子会数	件数	金 額	件数	人数	受付者数			献血者数	金額	
1	1	山 形	50	50	2	0	0	50	0	0	7	1,428,657	6	48	83	76	0	0	0	80.0
		山 形 蔵 王	33	34	2	0	0	34	0	0	2	29,796	3	38	25	22	0	0	0	75.0
		上 山	49	51	3	0	0	51	18	18	4	1,035,713	5	75	0	0	0	0	0	91.1
		山 形 中 央	41	40	2	0	0	40	3	3	3	38,006	2	15	0	0	0	0	113,000	75.0
		山形センチュリー	21	20	2	0	0	20	0	0	3	26,026	3	10	0	0	0	0	0	77.5
		上山あららぎ	35	35	3	0	0	35	4	4	2	32,260	4	38	0	0	0	0	0	70.0
	小 計	229	230	14	0	0	230	25	25	21	2,590,458	23	224	108	98	0	0	113,000		
	2	山 形 霞 城	121	125	2	0	0	125	35	42	2	49,046	1	5	0	0	0	0	0	66.8
		山 形 千 歳	39	39	3	0	0	39	5	5	4	145,805	3	30	0	0	0	0	0	66.1
		山 形 紅 花	39	38	3	0	0	38	0	0	2	148,246	2	34	0	0	0	0	0	86.8
		山 形 羽 陽	35	37	3	0	0	37	6	6	2	26,566	1	17	0	0	0	0	0	67.7
		山形アルカディア	30	31	2	0	0	31	7	7	3	410,372	3	31	1	1	0	0	0	74.1
		小 計	264	270	13	0	0	270	53	60	13	780,035	10	117	1	1	0	0	0	
	合 計		493	500	27	0	0	500	78	85	34	3,370,493	33	341	109	99	0	0	113,000	
2	1	米 沢	50	51	9	0	0	51	15	29	1	5,000	1	1	6	5	0	0	0	57.6
		米 沢 中 央	25	26	2	0	0	26	0	0	1	5,000	1	1	6	5	0	0	0	57.6
		米 沢 松 岬	19	18	3	0	1	17	1	1	2	13,579	2	4	7	6	0	0	0	55.5
		米 沢 松 川	39	38	12	3	0	41	7	17	2	35,000	1	1	6	4	0	0	0	81.5
		小 計	133	133	26	3	1	135	23	47	6	58,579	5	7	25	20	0	0	0	
	2	南 陽	46	49	5	0	1	48	0	0	4	96,784	4	18	102	94	0	0	0	34.6
		川 西 山 形	19	22	5	0	0	22	7	7	2	31,320	1	11	0	0	0	0	0	86.3
		高 畠	59	62	4	0	0	62	11	15	4	71,320	1	21	0	0	0	0	0	58.0
		長 井	50	50	4	0	1	49	7	7	3	79,715	2	27	34	31	0	0	0	61.2
		飯 豊	23	23	2	0	0	23	0	0	2	7,500	2	5	54	49	0	0	0	63.0
		白 鷹	38	37	2	0	0	37	0	0	3	125,790	3	50	27	23	0	0	0	55.0
		小 計	235	243	22	0	2	241	25	29	18	412,429	13	132	217	197	0	0	0	
	合 計		368	376	48	3	3	376	48	76	24	471,008	18	139	242	217	0	0	0	
	3	1	河 北	44	43	2	0	0	43	11	12	3	32,143	1	4	0	0	0	0	0
寒 河 江			42	42	3	0	0	42	14	14	5	238,051	4	39	0	0	0	0	0	85.7
西 川			33	33	1	0	1	32	1	1	2	13,623	4	15	44	36	0	0	0	76.5
中 山			18	18	1	0	0	18	1	1	2	24,211	2	9	49	49	0	0	0	72.2
寒河江臥龍			59	59	5	0	0	59	13	13	6	192,152	6	80	0	0	0	0	0	50.8
小 計			196	195	12	0	1	194	40	41	18	500,180	17	147	93	85	0	0	0	
2		天 童 童	31	31	2	0	0	31	0	0	5	97,130	9	48	13	12	0	0	0	96.7
		天 童 王 将	62	63	4	0	0	63	8	11	4	111,570	7	30	23	19	0	0	0	80.1
		天 童 舞 鶴	47	48	5	0	0	48	7	7	3	76,690	4	41	18	16	0	0	0	65.6
		天 童 中 央	54	54	3	0	0	54	4	4	5	571,900	6	57	22	19	0	0	0	81.4
		天童もみじ	12	13	2	0	0	13	2	2	3	33,873	5	22	6	4	0	0	0	100.0
		小 計	206	209	16	0	0	209	21	21	20	891,163	31	198	82	70	0	0	0	
合 計		402	404	28	0	1	403	61	65	38	1,391,343	48	345	175	155	0	0	0		
4		1	村 山	32	32	4	0	0	32	9	11	3	91,855	4	27	47	40	0	0	0
	東 根		27	27	3	0	0	27	4	6	0	0	1	13	0	0	0	0	0	70.3
	尾 花 沢		42	45	6	0	0	45	13	14	4	283,166	4	47	48	38	0	0	0	43.3
	大 石 田		38	38	3	0	0	38	4	5	3	155,885	1	13	78	70	0	0	0	72.3
	東根さくらんぼ		48	50	3	0	0	50	10	10	3	28,000	3	10	28	27	0	0	0	76.2
	小 計	187	192	19	0	0	192	40	46	13	558,906	13	110	201	175	0	0	0		
	2	新 庄	22	22	5	0	0	22	4	4	3	63,063	2	17	56	51	0	0	0	86.3
		真 室 川	37	39	3	0	0	39	2	2	1	20,000	1	2	27	21	0	0	0	71.7
		金 山	17	20	4	0	1	19	6	6	3	39,400	3	6	40	35	0	0	0	44.4
		新庄もがみ	20	20	4	0	0	20	1	1	2	364,284	2	40	0	0	0	0	0	73.6
		龍ニューセンチュリー	35	34	3	2	1	35	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	45.7	
		新庄もみの木	23	22	3	0	0	22	0	0	2	60,000	1	15	0	0	0	0	0	68.1
		小 計	154	157	22	2	2	157	16	16	11	546,747	9	80	123	107	0	0	0	
	合 計		341	349	41	2	2	349	56	62	24	1,105,653	22	190	324	282	0	0	0	
5	1	酒 田	81	82	5	0	0	82	26	32	4	226,878	5	47	0	0	0	0	0	68.0
		余 目	19	19	3	0	0	19	4	4	5	48,464	3	13	43	34	0	0	0	42.1
		酒田みなと	37	37	3	0	0	37	9	12	5	96,247	3	20	20	17	0	0	0	82.4
		酒 田 山 王	7	8	3	0	0	8	0	0	3	61,824	3	15	0	0	0	0	0	81.2
		酒田シーサイド	29	29	2	0	0	29	0	0	0	0	1	13	0	0	0	0	0	67.2
		酒田さわやか	13	13	3	0	0	13	0	0	1	3,315	1	5	0	0	0	0	0	73.0
	小 計	186	188	19	0	0	188	39	48	18	436,728	16	113	63	51	0	0	0		
	2	鶴 岡	37	37	6	0	1	36	6	9	3	24,122	3	24	0	0	0	0	0	68.4
		鶴 岡 朝 陽	31	31	2	0	0	31	6	6	0	0	2	22	74	60	0	0	0	58.0
		三 川	22	22	1	0	0	22	5	5	1	10,000	1	12	0	0	0	0	0	63.6
		羽 黒	18	19	3	0	0	19	8	8	0	0	1	5	0	0	0	0	0	42.1
		鶴 岡 鶴 陵	40	41	2	0	0	41	10	11	3	22,695	2	20	0	0	0	0	0	78.0
		藤 島	43	43	3	0	0	43	0	0	1	70,000	0	0	0	0	0	0	0	34.8
		鶴 岡 中 央	38	39	3	0	0	39	0	0	1	80,000	2	47	0	0	0	0	0	60.2
鶴岡ナイスフェロー		10	6	5	0	0	6	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	50.0	
小 計	239	238	25	0	1	237	36	41	9	206,817	12	132	74	60	0	0	0			
合 計		425	426	44	0	1	425	75	89	27	643,545	28	245	137	111	0	0	0		
地 区 合 計		2,029	2,055	188	5	7	2,053	318	377	147	6,982,042	149	1,260	987	864	0	0	113,000		

「映像で見る藤沢周平作品」

文：L. 帯谷行夫（鶴岡LC）
画：三浦恒祺氏



最初の結婚は嫁いで1年程で夫の病死のため実家に戻った浦井の野江が、乞われて再婚した磯村家は武家にもあるまじき蓄財に精を出す家であった。野江、勢津姉妹に優しくった叔母の墓参りの帰途、山桜の一枝を手折ってくれた手塚弥一郎の穏やかな風貌、物腰、言葉遣いに野江は目覚めさせられた。弥一郎が藩政の横車を押す諏訪平右衛門を城中で刺殺し、本人はそのまま大目付の屋敷に自首し、獄舎に収監される。弥一郎の高い志操に全く理解の無い磯村の家を出て野江は再び浦井の家に戻る。家では両親、弟妹が優しく接してくれる。

手塚の家では弥一郎不在の家を母親が一人寂しく日を送っている様子。弥一郎との初めての出会いからほぼ1年経過した。又あの桜が咲いているのを野江は知り、桜の許に行き、通りすがりの農夫から枝を採ってもらい、その桜を抱えて弥一郎不在の家を訪ねる。手塚の母から、野江さんのことは弥一郎から何も聞いてはおりませんよ、と云われることの不安を抱きながらおとなう。弥一郎の母は浦井の野江と聞いて柔和な微笑みをたたえながら、何時か貴女がこうしてこの家を訪ねてみえるのではないかと思っていました、といって家の中に招き入れてくれた。野江は自分が嫁ぐ家は此处だった、と泣き崩れるところで小説は終る。

映画は、弥一郎の母から野江が笹巻き作りを教わる場面が続く。この時二人が着物の柄が、桜を持って訪れた時と違っている、これは多分時間の経過を示すとともに、弥一郎が許されて獄舎から解かれることの伏線となっているのではなかろうか。

『山 桜』（映画）

公開年月日：2008年5月

脚 本：飯田健三郎 長谷川康夫

プロデューサー：森谷晃育 杉浦 徹 柳沢光俊 林 裕之

制 作：川越和実 遠谷信幸 遠藤義明 亀山慶二

監 督：篠原哲雄

出 演：東山紀之 田中麗奈 篠田三郎

壇 ふみ 千葉哲也 宮司純子